

令和元年度 なは市民協働大学レポート

防災を主なテーマとした
第4・5・6回にフォーカス！！
しました。

第4回

「あなたの地域は安全ですか？
そして楽しく防災を！」

講座内容				
回	日時	会場	参加人数	講座内容
1	6/25(火) 19:00~21:00	会議室①	37名	入学式・オリエンテーション ○おひげのつなぐ (受講生同士お互いを知る) ○協働の考え方やまちづくりについて
2	7/2(火) 19:00~21:00	会議室①	34名	講座①子どもの居場所と地域づくり ○子ども食堂、子どもと地域をつなぐサポーター (城間えり子さん) ○山城塾 (山城勝秀氏) ○保護管理課
3	7/30(火) 19:00~21:00	会議室①	30名	講座②最後まで那覇で幸せに暮らせる仕組みを考える ○地域包括支援センター松川 (中村丘学氏)、松川共同住宅自治会 (祖慶和明氏) による移動販売の取組み ○ちやーがんじゅう課
4	8/20(火) 19:00~21:00	会議室①	26名	講座③あなたの地域は安全ですか？そして楽しく防災を！ ○若狭公民館長 (宮城 潤 氏) ○防災危機管理課
5	10/1(火) 19:00~21:00	会議室①	32名	講座④繁多川のまちづくり ○繁多川公民館長 (南 信乃介 氏)
6	10/12(土) 10:00~13:00	繁多川地区	25名	まちま〜い 軽食代(希望者のみ)として1,000円を徴収します。 ○繁多川公民館、地域住民の皆さん ○在来大豆オーヒゲパン&繁多川ゆし豆腐の軽食 Box
7	10/29(火) 19:00~21:00	会議室①	26名	私が、私たちグループができる協働によるまちづくりとは ○テーマごとに分かれたチームで、成果発表に向けたワーク・資料作り
8	11/23(土) 15:00~18:00	会議室①	31名	成果発表・卒業式・懇親会 ○グループ同士で互いの気づきをシェア。関係者に聴講いただき意見を戴きます。 ○市長より卒業証書の授与を受ける

宮城館長と真栄里主査



若狭公民館 (公民館委託先: NPO法人地域サポートわかさ) 宮城館長からはリッカ! ヤールーキャラバン! や防災キャンプなど、様々な防災に対しての講座の紹介がありました。災害時には、まずは自分で助かる力を付ける「自助」が重要でなはいか。また、自治会加入率が低いなど那覇の実態に合った新しい防災のカタチを発明することが必要と思っている、との講話でした。

防災危機管理課 真栄里主査からは那覇市防災・気象情報メールなどの情報発信や各種訓練、自主防災組織の未結成など防災の課題などの講話でした。

質疑応答の中では、実際に阪神・淡路大震災を経験し、ボランティアをされた有村さんからの貴重な講話もありました。

◆受講生の声◆

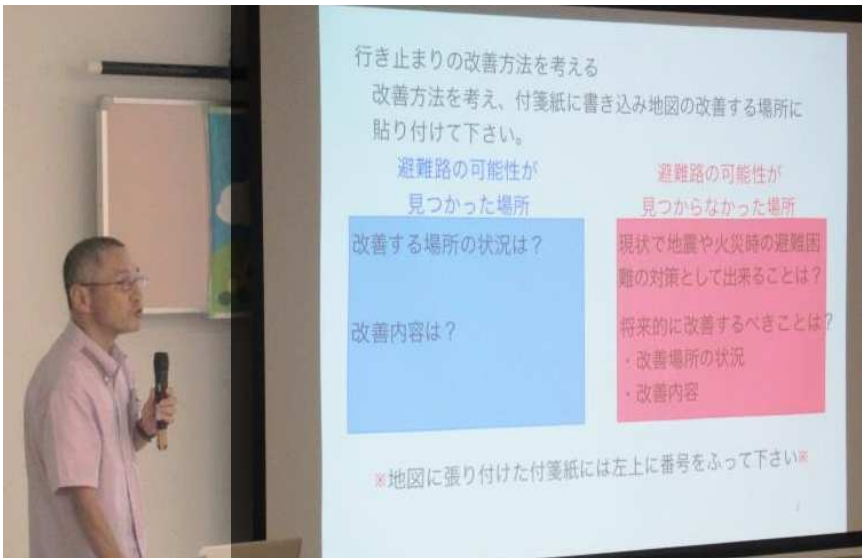
- ・「授援力」を備えるには、日頃からの人付き合いやコミュニティの必要性を本当に感じました。
- ・一概に「地域コミュニティ」とよく口にしますが、行きつけのお店や趣味仲間などもコミュニティの一部である事を今日気づいた。
- ・参加する人とならない人では大きく分かれるので、地域のお祭りなど地元の人が参加しているところで(災害イベントを)催すともっと意識が高まる気がする。



若狭公民館主催：防災キャンプ

第 5 回 「繁多川のまちづくり」

琉球大学工学部 清水教授、那覇市地域包括支援センター繁多川 濱川所長、繁多川公民館 南館長をお招きして繁多川地域特有の住宅密集地から見た地域課題をどのように改善・解決に至っているか、との講話でした。道は狭く、鉄筋が入っていないブロック塀があったり、行き止まりが多く、災害時にはすぐに大通りにいけない場所があり、地域住民を巻き込んで会議を重ね避難路・救助路の設置をしたとの講話でした。



清水教授

濱川所長



南館長



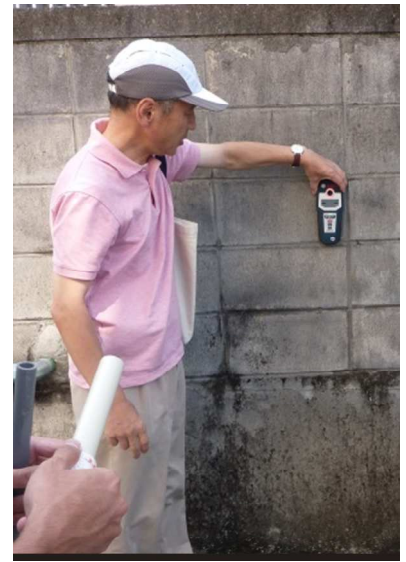
第 6 回 「まちま〜い」

3 コースに分けて行った繁多川地域のまちま〜いの 1 つ、地域計画コースの様子です。

①



②



③

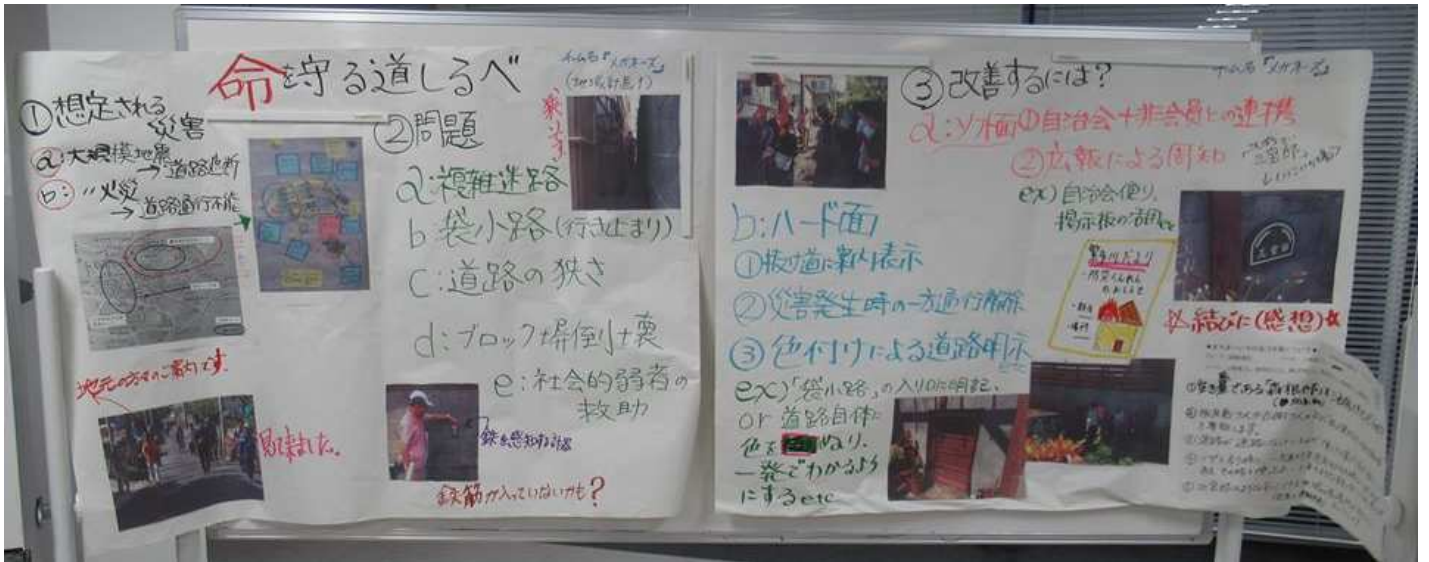


④

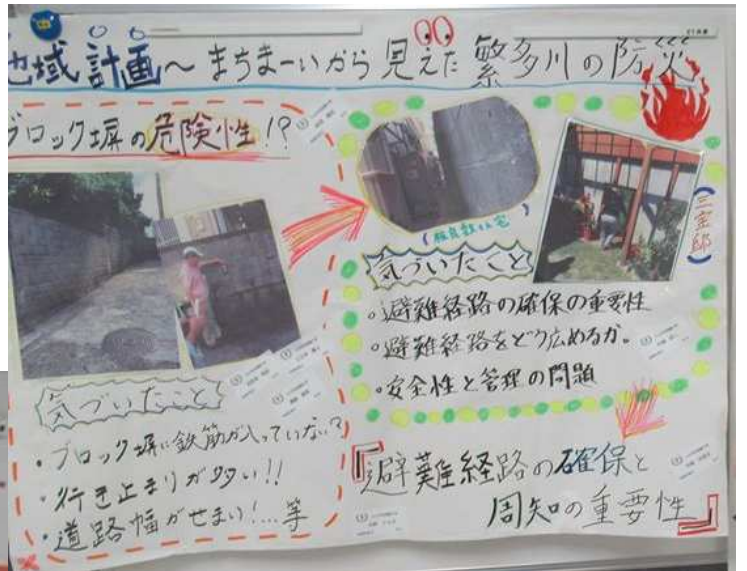


- ① 繁多川地域計画（福祉・防災部会）が独自でつくった道具を使い道幅を測りました。
- ② ブロック塀に鉄筋が入っているかどうかの検査を実演してもらいました。
- ③④地域で設置した避難路・救助路 2 ヶ所は、設置後の初通過となりました。

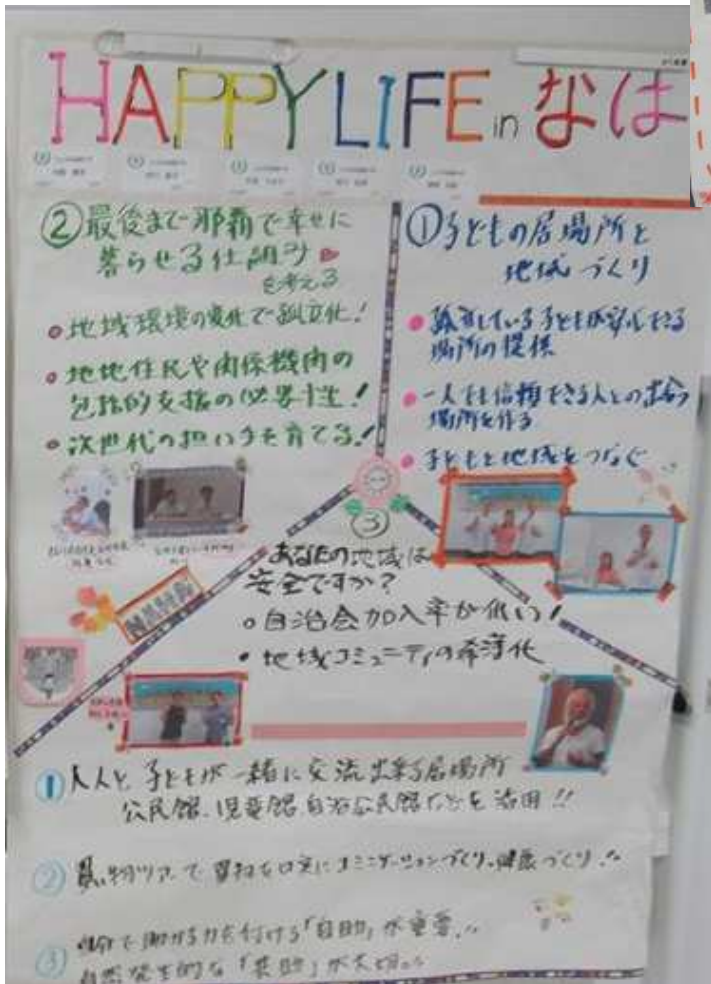
第8回 「成果発表会」



チーム：地域計画①



チーム：HAPPY LIFE in なは



チーム：地域計画②

発表会の様子



追記 繁多川公民館フェイスブックより



12月13日 12:13

今日は、繁多川の避難路・救助路の看板を設置する日でした。

繁多川は行き止まりや緊急車両が入れない道が多く、非常時の避難に地域住民は危機感を持っていました。

3年に及ぶ、地図上での調査、まち歩き、避難路確保の話し合いを経て
私有地を活用しての避難路救助路が初めて誕生しました。板良敷さん、古謝さんの地域を想う気持ちが溢れていました。カッコいい！

設置者は

繁多川自治会、包括支援センター繁多川

繁多川公民館、那覇市防災危機管理課

そして琉球大学清水研究室が協力していただいています。

令和元年度 なは市民協働大学
市民文化部まちづくり協働推進課
なは市民活動支援センターG
TEL098-861-5024(内6157)
担当：渡嘉敷 眞榮平 津波